

介護老人保健施設オアシス21 2階療養棟

症例概要 入所者： 男性 80代 要介護度 3

病名：心不全 頻脈性不整脈 2型糖尿病 高血圧症 脂質異常症 陳旧性心筋梗塞 陳旧性ラクナ梗塞

経過：2016年1月妻が逝去後しばらく一人暮らしをしていたが、同年12月ケアハウスへ入居。転倒を繰り返し入院の過程で心不全、不整脈がみつきり内服調整。症状改善したが廃用により生活全般に見守り・声かけが必要、認知機能低下もあり、インスリン自己注射困難となり、ケアハウスへ戻ることができず退去となったため、リハビリと今後の方向性検討の目的で入所。

入所時には「私としてはもう既に十分に生きたと考えており、何時死んでもいいと思っている」との発言もあり、「延命処置お断りの声明」の写しを提供いただく。

内 容

入所時は、「もういいんだ」とあきらめた発言が聞かれていた。

入所して間もなく、石狩市介護相談員とのオンライン面談を行う。

「自分の名前は聖書の中から付けられた。小さい時からクリスチャンホームで育ち、合唱団で聖歌を歌っていた」と伺う。ここでやりたいことがないか尋ねると「合唱をやりたい」との希望があり、さっそく施設ケアマネ・担当セラピストと情報共有。コーラス発表会を企画する。コーラス隊のメンバーは、合唱経験がない方ばかりなので、皆が知っている曲が良いとご本人に選曲していただき練習を開始。また、2部合唱にしましょうとご本人より提案があり、アルトとソプラノに別れて練習。練習では、座って歌っていたが本番では、椅子を用意して欲しいと希望してたが立ちあがり、練習よりも大きな声のでて、アンコールでは指揮をしながら歌った。終了時には、「またやりたい。今度は独唱でもしましょうか」と話される。

身元引受人の弟様とは入所中の様子を適宜メールでお知らせしており、ご本人の希望を叶えるコーラス発表会を企画したことをお伝えした。弟様より「本日は兄の希望を受けて合唱隊を結成なされたとお知らせをいただき、ビックリしております。選曲などにさぞご苦心されていることと拝察します。リハビリのためとは云え、積極的に多彩な刺激をもご用意下さる貴施設に厚く御礼申し上げます。貴施設のご活動に敬意を表します」とメール返信いただいた。

また、発表会後にも弟様へ様子をお知らせするメールを送り、弟様より「コーラス発表会成功の模様をお伝え下さり有難うございました。施設職員の方々の様々なご配慮があつての盛会と拝察し、厚く御礼申し上げます。歌う側も聴く側も口づさむ側も、それぞれに楽しい時を過ごされ、若かりし時代を回想できたなら、何よりの企画と存じます」と返信いただいた。



後日、直接面会の際に、弟様・妹様、ご本人とコーラス発表会の様子を撮影した動画を鑑賞。弟様より「こんなに声が出て歌えるとは思いませんでした。とても良い表情をしている兄を久しぶりに見ました。兄の笑顔を引き出してくださり感謝します」と感謝の言葉をいただいた。

現在、次回の発表会に向けて練習中。日常生活も笑顔が多く見られるようになった。